

ペルー 柑橘類の出荷量が2025年から減少する可能性

FreshFruitProtal 2023年4月6日

生産コストに直接影響を与えた2020年12月の農業振興法の廃止により、2025年からペルーの柑橘類の出荷量が減少する可能性があるという情報サイトの[アグリリア](#)が報じている。

ペルー柑橘類生産者協会(ProCitrus)のセルジオ・デル・カステージョ事務局長は、柑橘類業界は2023年に約27万トンを出荷する見込みだと言う。この数量は、マンダリン、オレンジ、タンジェロ、グレープフルーツ、レモン等の合計であり、同事務局長は「2022年に出荷された26万4,140トンと比較して2.2%の微増である」と述べた。

同事務局長は一方、業界では早生のマンダリン、オレンジ、タンジェロの減少が見られると述べ、「物流コストや生産コストの増加などの近年の危機により、事業者らは拡大計画を保留している。なぜなら、2020年以前と比べ、もはや同じ作物に同じ期待を持ってないからだ」と語った。

法律の廃止についてカステージョ事務局長は、柑橘類が「間違いなく、ゲームのルール変更によって成長を予測できないほど大きな影響を受けた作物である」と説明した。同事務局長によると、柑橘類セクターへの投資は2021年に停止され、現在、柑橘類の新植は事実上行われていない。

同事務局長はさらに、現在出荷が停止しており、一部の生産者は、とりわけウンシュウミカン、ミネオラ、ダンシー、マルバセア、マーコット等の古い果樹園を伐根することを決定したと述べた。

カステージョ事務局長は、「伐根された柑橘類の園地が今後改植されないのであれば、ペルーの柑橘類の供給は減少する。2023年から2025年までは現在の慣性力が維持されるだろうが、3年後にはこれがペルーの柑橘類にどのように影響したかを目にすることになる」と述べた。

(関連記事) ペルー 2023年の柑橘類輸出は4%増加

FreshFruitProtal 2023年3月9日

ペルー柑橘類生産者協会(ProCitrus)の報告によると、ペルーは2023年中に最大27万トンの柑橘類(オレンジ、マンダリン、ライム、レモン、グレープフルーツ)を輸出する。今シーズンの収穫の開始が遅れたにもかかわらず、これは25万9千トンを出した2022年と比較して4%の増加となる。(原文のまま)

同協会のセルジオ・デル・カステージョ事務局長は、「早生品種の出荷は少し遅れており、出荷シーズンの最初のピークは4月末から5月と予想される。サビダニなどの害虫の存在は通常のことなので、園地ではクワドスポリウム(黒カビ)菌のは場中及び果実中の存在量を減らすための防除が行なわれている」と述べた。

輸出は8月まで続くが、1回目の開花による果実の出荷は急激な減少で始まったため、2回目と3回目の開花による出荷量が今シーズンの実績を決定することとなる。

昨シーズン、輸出は高い輸送コストとウクライナでの戦争の影響を受けた。多くの柑橘類生産者は他の果実への切り替えを余儀なくされ、柑橘類の出荷量は平均8%減少し、特にマンダリンとオレンジで顕著であった。

市場と経済の安定が遅れているが、今シーズンの予測は楽観的である。出荷シーズン序盤の遅れにもかかわらず、デル・カステージョ氏は「ペルーでは柑橘類輸出シーズンの出だしは通常どおり進んでいる」と述べた。